

「筆柿」産地・幸田町で第40回全国カキ研究大会産地視察が開催されました

1 第40回全国カキ研究大会について

8月29日(水)に幸田町内で第40回全国カキ研究大会の産地視察が実施されました。本大会は、全国のカキ生産者が一堂に会して、カキ産地の発展に期することを目的に隔年で開催されており、愛知県では22年ぶりの開催となりました。今回の大会には、参加のあった18県の生産者を始め650名の参加があり、8月28日(火)にカキ産地の活性化に係る基調講演や奈良県、福岡県及び本県の生産者による事例発表などの研究会と、翌日に県内カキ産地を見て回る視察で構成されています。

視察当日は2つの視察コース合わせて県外から110名の参加があり、西三河筆柿選果場と園地を視察していただきました。選果場では幸田町長とあいち三河農業協同組合代表理事専務の歓迎あいさつに始まり、選果施設、岐大式渋判定機や筆柿加工品の説明・展示などが、園地では園主あいさつに引き続き、栽培概要説明とほ場見学が行われました。

また、道中、平成21年4月にオープンした道の駅『筆柿の里・幸田』にも立ち寄ってもらうなど、全国の生産者に対して幸田町の「筆柿」をPRしました。

【選果場の状況】



【視察園地の状況】



2 筆柿とは

幸田町の「筆柿」は、全国シェアの95%を占める地域の重要な特産品です。

筆柿は、1本の木に甘柿も渋柿もなる不完全甘柿で、富有柿や次郎柿などの一般的なカキよりも熟期が1か月ほど早く、9月中旬から出荷が始まる極早生のカキです。

【筆柿】

